

【目的】 地域在住のシニア層（60代、70代）内で、人との交流が活発な人は、ICT利活用による人間関係への影響がどの程度実感しているかを定量調査にて明らかにする

【背景】

- シニア層において、スマホの所有率が上昇し、2023年1月現在60代93％、70代79％となる。
- SNS利用もLINEを中心に上昇している。

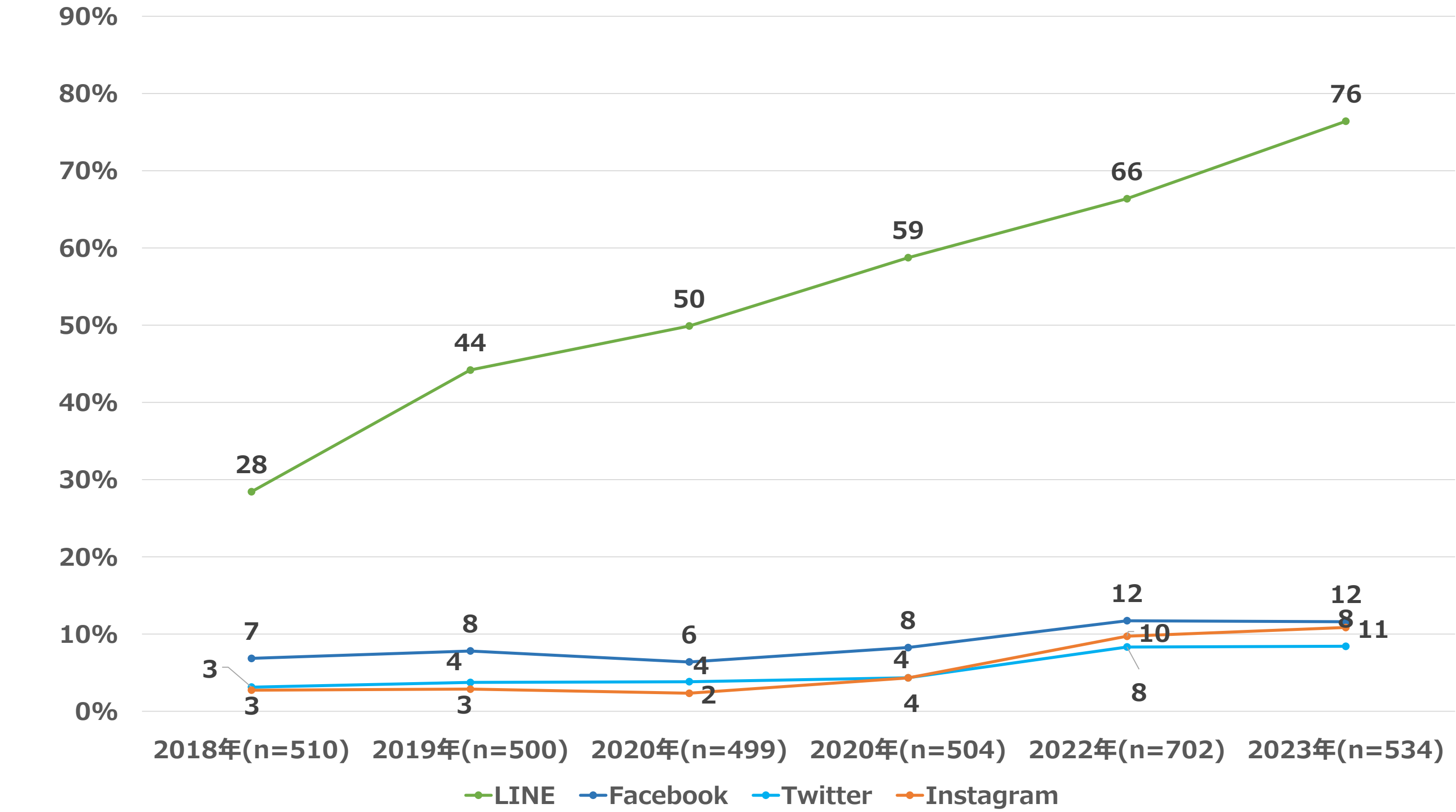


図1 シニアのSNS利用率

【調査概要】

- 関東1都6県に在住、60・70代
- 性年齢及び居住地の都市規模に応じて割付
- 訪問留置法を用いて実査
- 2022年1月、サンプル数は709
- 分析対象は657(無回答11、スマホ・ケータイ・パソコン・タブレット何れも未所有者41を除いた)

【分析の流れ】

- 交流を①対面②非対面で積極派・消極派に分ける
- ICTの人との関係に変化を及ぼした結果をより因子分析を行い、各因子の得点を算出
- 1で作成したそれぞれの群の因子得点から考察を行う

【倫理的配慮】 当調査は、調査員が回答者に対し、調査内容の説明等を実施し、承諾を得た方のみに回答を依頼

【調査結果】

《対面交流・非対面交流を頻度で層別化（積極・消極）》

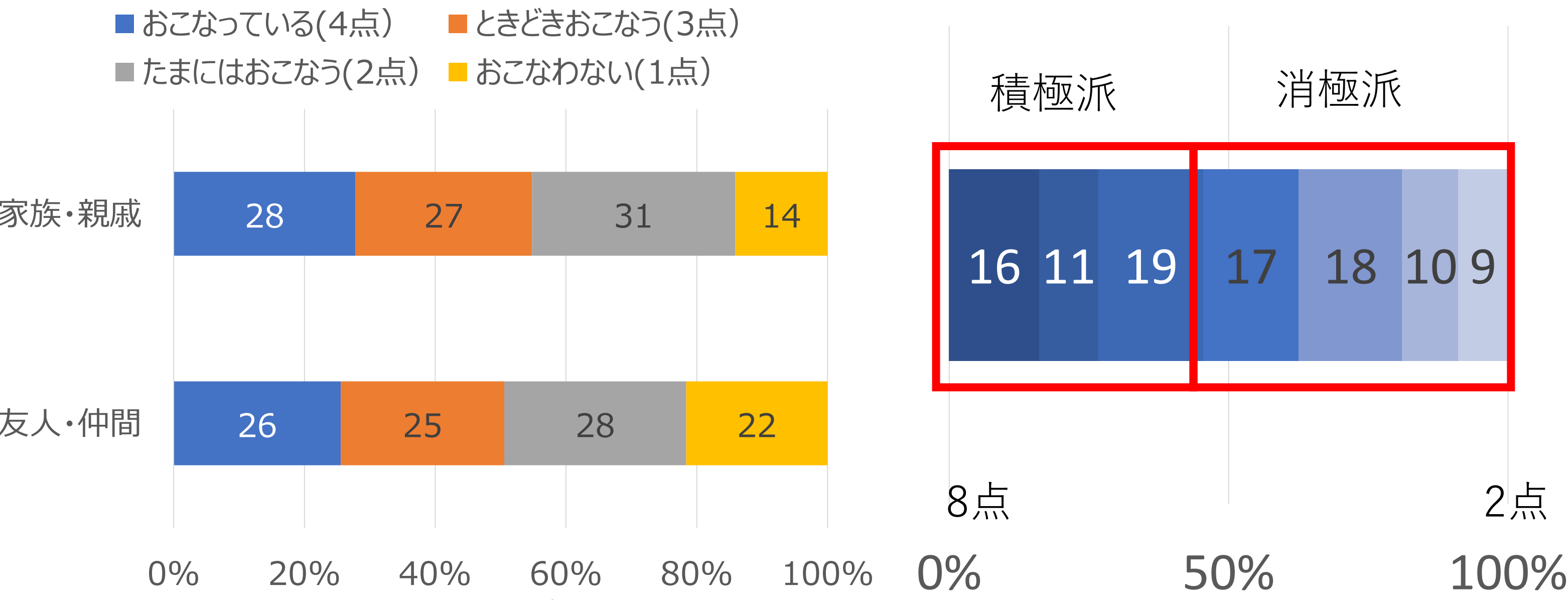


図2 対面交流

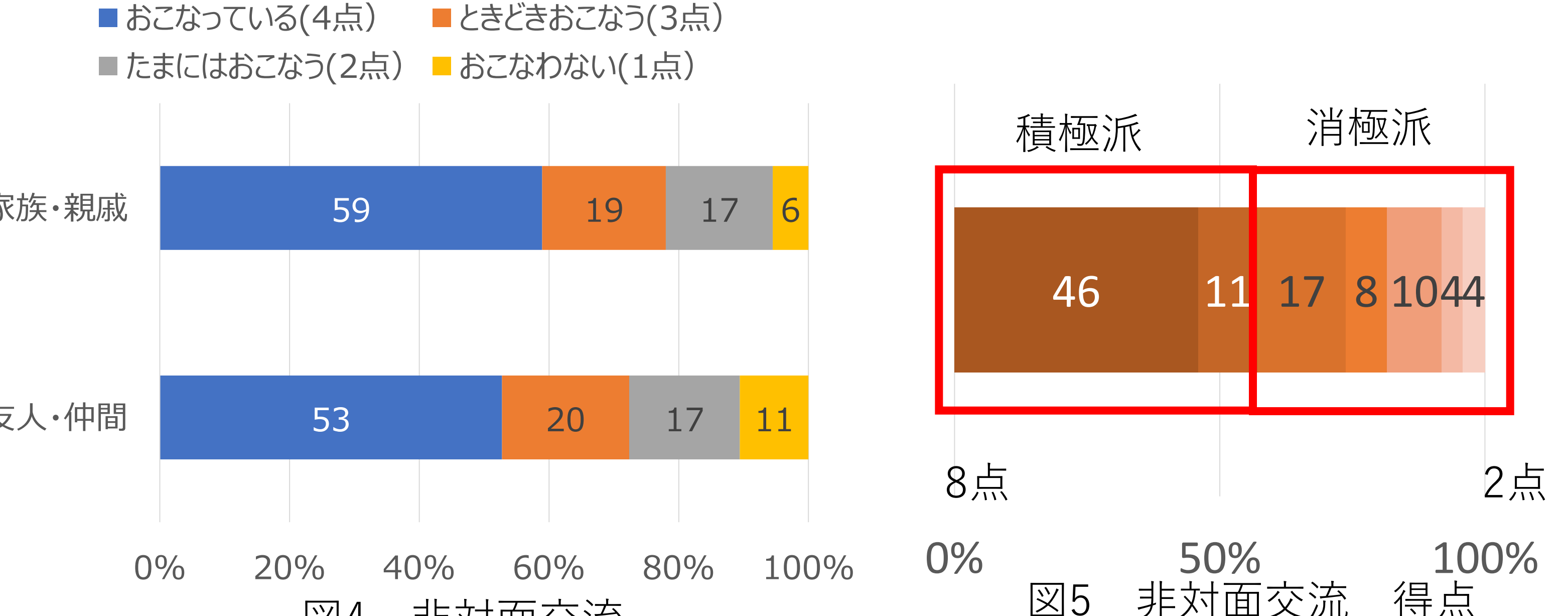


図3 対面交流 得点

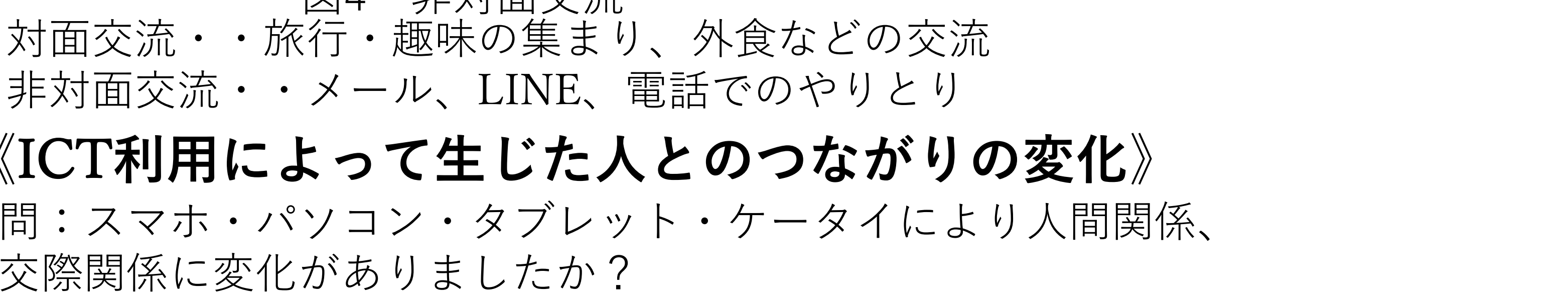


図4 非対面交流

対面交流・・・旅行・趣味の集まり、外食などの交流

非対面交流・・・メール、LINE、電話でのやりとり

《ICT利用によって生じた人とのつながりの変化》

問：スマホ・パソコン・タブレット・ケータイにより人間関係、交際関係に変化がありましたか？

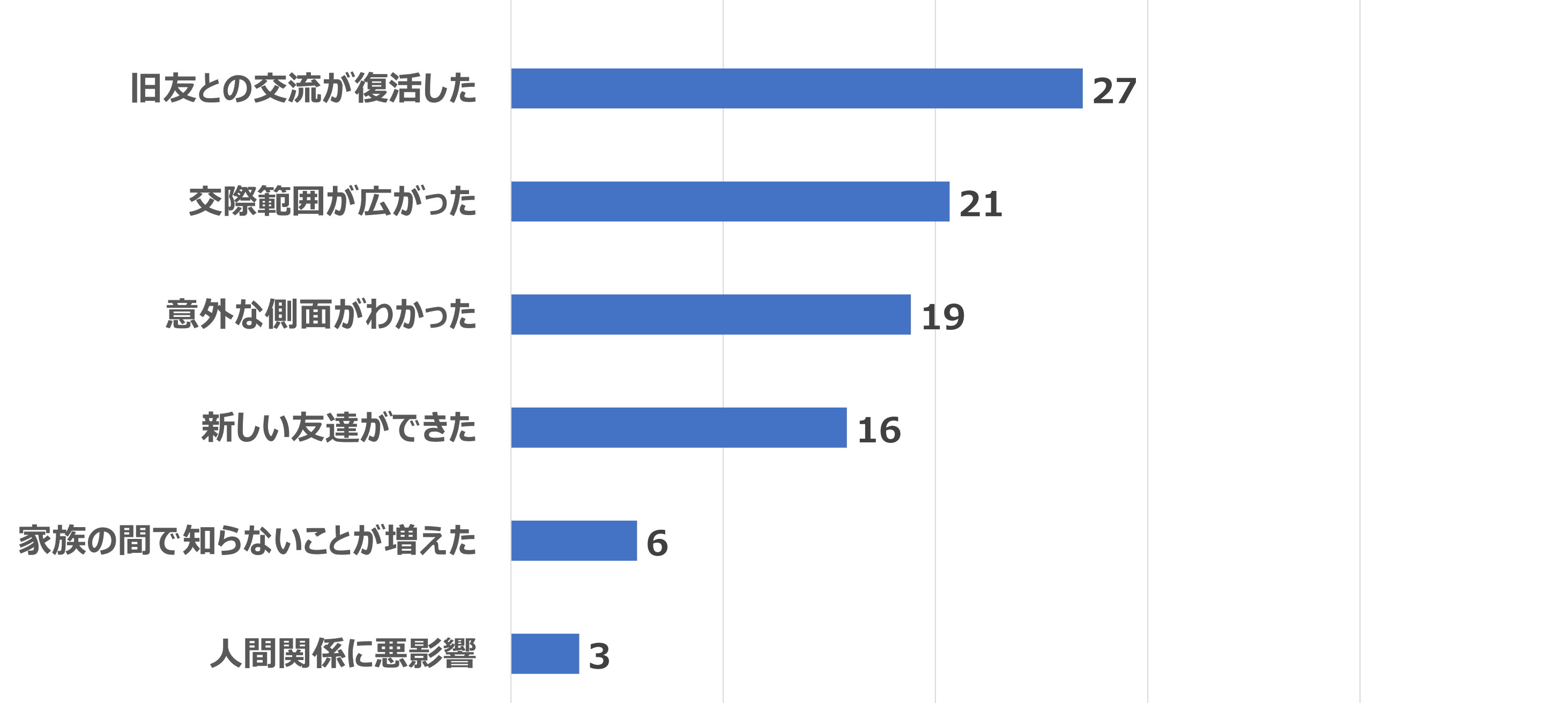


図6 ICT利用による人とのつながりの変化

《因子分析》

第一因子「深化」、第二因子「拡大」を抽出

表1 因子分析

	深化	拡大
知人・友人との交流が密	0.76	0.26
家族との交流が密	0.65	0.18
旧友との交流が復活した	0.53	0.32
意外な側面がわかった	0.36	0.34
交際範囲が広がった	0.30	0.77
新しい友達ができ	0.20	0.72
家族の間に知らないことが増えた	0.09	0.21
人間関係に悪影響	0.09	0.18

主因子法・バリマックス回転

固有値 1 以上で抽出

Cronbachのα 第一因子.82 第二因子.87

《対面及び非対面交流の積極・消極層別に各因子の得点》

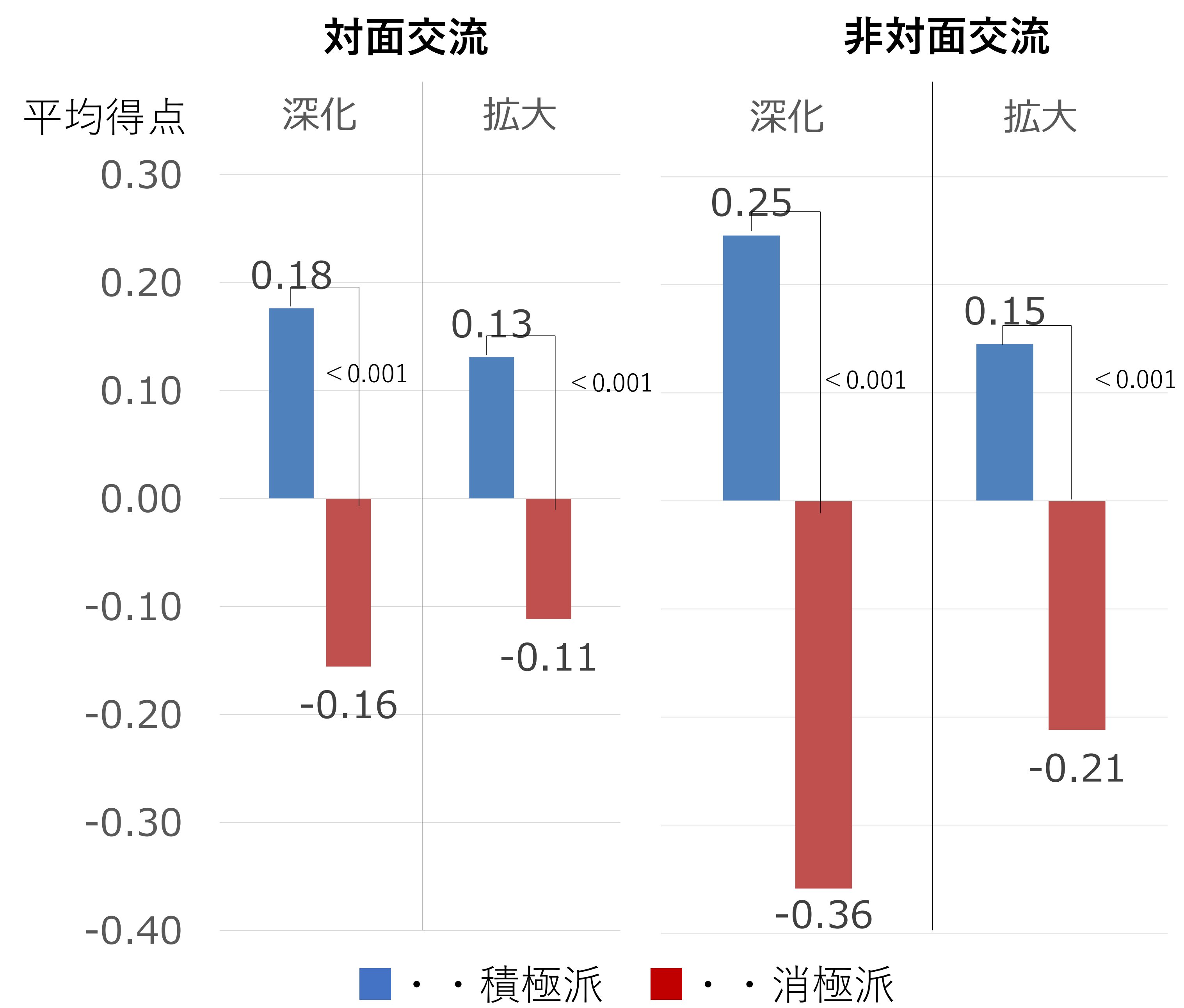


図7 対面及び非対面交流の積極・消極層別に各因子の得点

《参考：年代別 深化・拡大の傾向》

- 非対面交流が積極か消極かによって、「人とのつながりが深化した」と感じる度合いが、シニアは他世代より大きい。
- 対面交流が積極か消極かと、非対面交流の影響（深化・拡大）はシニアは他世代より小さい。

表2 年代別 深化・拡大得点

対面	若年		中年		シニア		若年	中年	シニア
	積極	消極	積極	消極	積極	消極	差異	差異	差異
深化	0.57	-0.11	0.27	-0.15	-0.12	-0.33	0.68	0.42	0.21
拡大	0.73	0.30	0.10	-0.15	-0.11	-0.43	0.42	0.25	0.32
非対面	若年		中年		シニア		若年	中年	シニア
	積極	消極	積極	消極	積極	消極	差異	差異	差異
深化	0.40	-0.18	0.22	-0.34	0.02	-0.63	0.57	0.56	0.66
拡大	0.55	0.48	0.06	-0.23	-0.22	-0.39	0.08	0.29	0.18

【結果・考察】

①非対面交流だけではなく、**対面交流**においても、ICT利用による人との関係の「深化」「拡大」が有意に高い。

②対面・非対面問わず積極派と消極派の差異が大きいのは「深化」である。

シニアの非対面交流において、主観的健康にプラスに影響することが報告されている[1]。本稿では、人との交流の中で、ICTの活用が進み、その効用として関係性をより深める結果が見られた。対面交流にもその結果が見られたことで、ICTが連絡手段だけではなく、人との交流をより深化させている役割を持っている可能性がある。

【参考文献】

1)福定ら(2022)対面・非対面交流のタイプ別にみた高齢者の主観的健康：JAGES2019横断研究『構成の指標 Vol.69 No.12』号「厚生指標」』

◇ご案内◇

調査結果は弊所H P で公開『モバイル社会研究所』で検索

